

2009年の新年を迎えて

福井 博一

岐阜大学応用生物科学部 園芸学研究室

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

E-mail : fukui@gifu-u.ac.jp

URL : http://www1.gifu-u.~fukui/

去年は皆様方には色々とお世話になり有難うございました。

本当にこの1年間、色々なことがありました。

花卉業界では、アメリカのサブプライム問題に端を発した世界金融危機に伴う消費の低迷。原油の急激な高騰と、その影響を受けた重油や肥料などの農業資材の異常な高価格。バラ業界で急速に進んだヒートポンプの導入。その後の重油価格の低落。

私自身も、学長表彰や学会論文賞の受賞の一方で、思いもよらない副学部長の就任と管理職としての激務。それに伴う学生指導時間の減少。これまで重きを置いてきた花卉産業界への社会貢献の制約。年齢に伴う体力と能力の減退・・・。

愚痴を言っても何も変化は起きません！ 私のモットーでもある「何事も前向きに！ 後悔しても何も変わらない！ 反省をして、将来に向けて一步を踏み出そう！」

私も54歳になり、「人生VSOP」のP: Personalityの時代に突入してしまいました。VSOP最後のPersonalityの時代を充実させたいと思います。



アカベコは首を縦に振る仕草が可愛い福島の郷土民芸品です。2009年は「ハイハイ」と首を縦に振るだけではなく、時には「イイエ」と横に振る勇気を持ちたいと思います。



飛騨牛は「安福」という一頭の種牛とそれを支えた人達によって作られたブランドです。大学・花卉業界も優れたリーダーとそれを支える人々が一体となってブランド形成をすることが重要です。今年は是非その輪の中で活躍したいと思います。



バイオエタノール問題が飼料トウモロコシの国際価格を高騰させ、遺伝子組み換えトウモロコシの生産面積の増加に繋がりました。全てのことが国内問題で解決できない状況です。花卉業界も同じで、EU・USA・ロシアの景気が国内切花価格に影響しています。国産農産物でも偽装問題が発生し、単純に輸入農産物が悪く、国産が良いという構図は通用しません。地方大学の岐阜大学であっても国内問題だけに目を向ける訳にはいきません。



いずれにしても、キーワードは国際化への対応です。国際化とは何を意味するのかを正確に見定めることが重要です。



偽装問題などが原因で一時は店頭から消えていた牛乳も、徹底した信頼回復のための努力と、牛乳としての製品の品質が消費者に評価されて、再びスーパーマーケットの店頭の一部を担うまでに復活しています。



去年はスーパーマーケットの店頭からバターがなくなりました。しかし、いつの間にか復活しています。風評に惑わされない行動が大切です。

切花は消費が低迷していますが、輸入切花に対する国産切花の品質の高さを消費者に提案できているのでしょうか？
 鉢花は数年間販売価格が低迷していますが、消費者が認識できる高品質商品を提供できているのでしょうか？
 重要なことは、消費者の視点に立って「消費者が実感できる品質を提供できる」能力が問われています。「穫れた農産物を市場に出荷する」ことではなく「欲しい物を、欲しい人に、欲しい時に提供する」ことです。
 産業としての農業への変革とマーケティングがキーワードです。

大学にとって「顧客」とは誰でしょうか？ 学生は「顧客」でしょうか？ 私は大学の顧客には3者あり、「大学の教育力」に対して授業料という対価を支払っていただける保護者、教育力を投入した「高品質商品」である学生を受け入れていただける企業、「大学の研究開発能力」に投資していただける社会、と考えています。顧客の満足をみることが大学の使命です。



飛騨牛は岐阜県が誇る高品質ブランドで、美しい霜降りが特徴です。昨年の人間ドックでメタボリック症候群の診断を受けてしまいました。私の腹回りも霜降り？



飛騨牛を生んだ種牛「安福」は、その功績が評価されて銅像にもなっています。安福はスゴイ！ しかし安福の死後、飛騨牛のブランドを維持することの難しさに直面し、それを克服した人々の努力に敬服します。



カモシカは、名前は「シカ」ですが「ウシ」の仲間です。天然記念物に指定されていますが、林業や中山間地農業では食害も大きな問題となっている厄介者でもあります。保護と自立の狭間で揺れている農業問題と重なって見えてしまうのは私だけでしょうか？ 花卉業界は保護されていないからこそ自立できている産業といえます。



飼料トウモロコシの高騰を受けて飼料米が注目されています。しかし稲作農家の経営は大丈夫でしょうか？ 一方の都合だけで物事を考えることは、大局を見失うことになりかねません。しかし、考えすぎて何も出来ないことも大きな問題です・・・。

この2年間、MPS（花き産業総合認証プログラム）の認証業務に携わると共に、インド・ケニア・エクアドル・コロンビア・エチオピア・中国の国際切花生産輸出国を視察することができ、日本の花卉産業が何を指すべきかが見えてきたように思います。道を間違えなければ必ず歩むべき先が見えてきます。今年は花卉業界の道標の役目を是非果たしたいと思います。

変革の時代をむかえています。危機の時代はチャンス時代と考え、大学人として教育・研究・社会貢献・管理運営の各分野で最大限の力を発揮したいと考えています。本年もよろしくお願いたします。